

ことぶき薬局 055(977)6024 FAX055(977)0890 たまち薬局 054(251)1678 FAX054(251)1685

ひまわり薬局 053(463)4312 FAX055(460)4612 みかん薬局 053(584)2230 FAX053(584)2240

## 麻疹（はしか）について

今春、首都圏から始まった麻疹（はしか）の流行は、日本各地にひろがりを見せ、社会問題になりました。乳幼児期の感染症と思われていたのに、今年は10～20代に患者が目立ち、休校となる大学や高校が相次ぎました。なぜ大流行してしまったのか、今後どんな対策が求められているか考えていきましょう。

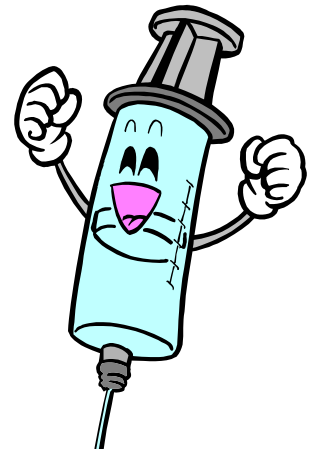
### 【麻疹（はしか）とは？】

感染者のくしゃみや鼻水の水分が蒸発し、細かい飛沫が空気中に漂うことで感染します。感染すると10～12日の潜伏期間を経て39度近い高熱、のどの痛み、咳、発疹が出るのが特徴です。通常は7～10日で回復しますが、一時的に免疫が低下し、重症化すると肺炎や脳炎を引き起こし、2000～3000人に1人の割合で死亡しています。

### 【日本は、はしか後進国!?!】

欧米や韓国、オーストラリアで、はしかはほぼ制圧され、アメリカでは年間患者10人程度で死亡者はいないといわれています。

流行をくい止めるには95%以上のワクチン接種率が必要とされていますが、日本はここ数年でようやく78%になったという水準で、毎年流行を繰り返しています。



### 【なぜ、10～20代に大流行!?!】

厚生労働省は4月1日～6月2日に休校したのは143校で、大学が54校と最も多く、高校34校、高専18校、中学校9校、小学校6校。学年、学級閉鎖を含めると計191校で、患者数は1771人に上ったと発表しました(2007年6月)。2006年度は、年間を通じても40人だったので、2007年はまさに大流行となりました。

(次ページに続く)

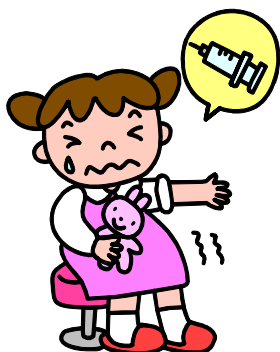
10～20代に流行した原因として、

1回もはしかの予防接種を受けていない人がいる

1回の接種では、数%の人に十分な免疫がつかない

ウイルスに接しないと免疫は弱まるが、最近は流行が減ったことにより、免疫増強が得られなかった

などが指摘されています。



さらに、1989年に導入されたMMRワクチン（はしか、おたふくかぜ、ふうしん混合）の副作用問題があり、今の10代は当時接種を控えた例もあるといわれています。

また、1994年の予防接種法改正で、「義務」から「努力義務」になり、任意の個別接種に切り替えられたことも、接種率の低下を招いたと考えられています。

### 【今後の国の対策へ望むこと！】

流行のほとんどない欧米諸国では、ワクチン2回接種の対策をとってきました。日本ではようやく昨年の4月からMRワクチン（はしか、ふうしん混合）の2回接種を導入しました。定期接種は1歳と就学前の1年間に打ちます。定期接種は公費負担ですが、それ以外は任意のため、原則自己負担になります。

また今年7月に厚生労働省は、ワクチン接種が1回しかなかった小学2年生以上を対象にワクチンの2回目の接種を確保すると発表しました。来年度から5年間、中1と高3時に接種を実施する予定です。費用の負担については今後議論とのことですが、公費負担となることを望みます。

はしかにかかったことがなく、ワクチンを1回も受けたことがない人は重症になりやすいので、早めの接種をお勧めします。幼児期に1回接種したことがあっても心配な人は、抗体価を調べ必要なら追加接種をしましょう。流行は春先に多いのですが、日本ではウイルスは年中どこかにいるはず。詳しくは医師に相談してください。

今のワクチンには卵の成分は微量しか入っていないので多くの方は大丈夫かと思いますが、アレルギーの心配な方は医師に相談してください。

